



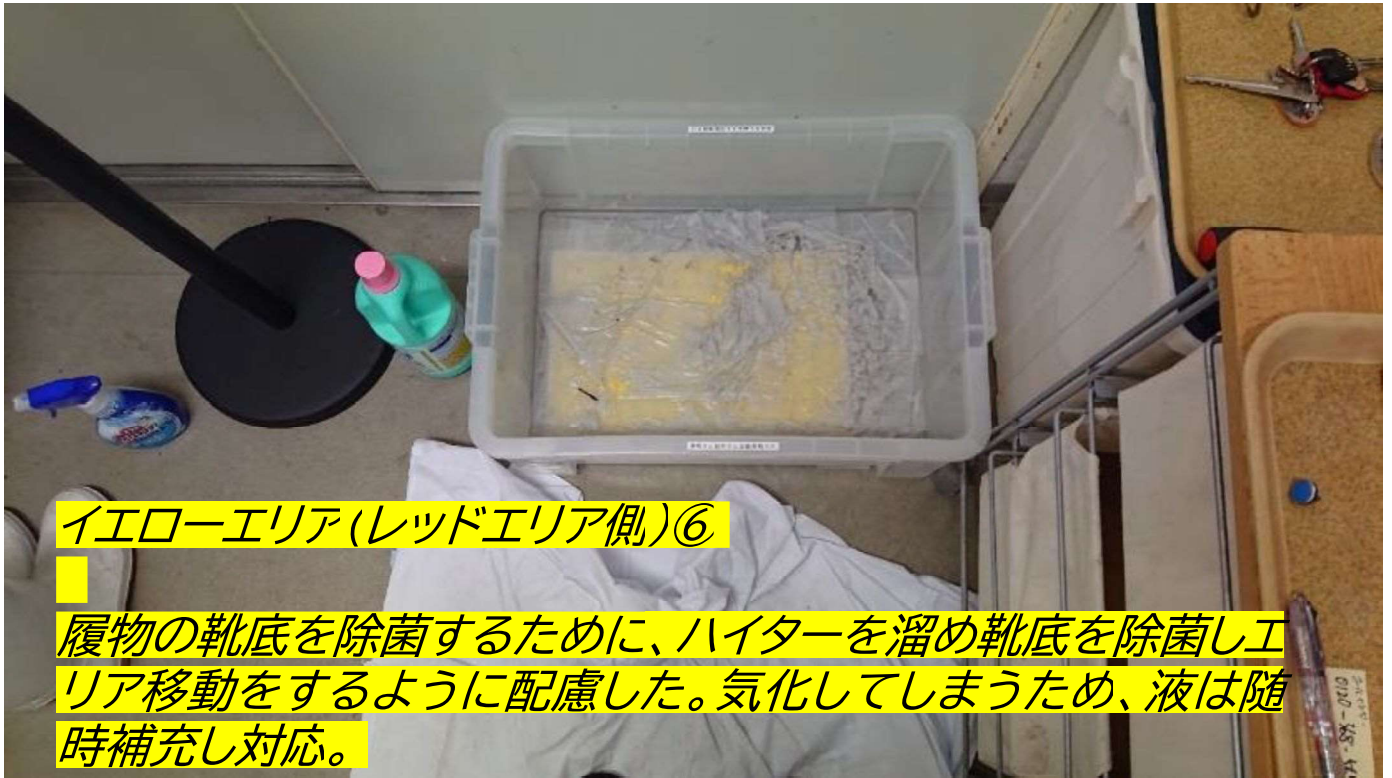
#### イエローエリア (レッドエリア側)④

レッドエリア内で使用する鍵や蛇口を同エリア入り口前にて管理。無断外出や多飲水がある利用者が対象でもあった為、施錠は徹底して行った。



#### イエローエリア(レッドエリア側)⑤

センサーを使用しての手指消毒機は非常に有効だった。レッドエリアから戻った後に触れることなく手指消毒ができる有用性は大いに証明できた。使用していて困った事はアルコールの補充を如何にするか、という点だった。



レッドエリア  
(汚染区域)



## ○レッドエリア内での対策の徹底

同エリアで使用する物、した物、廃棄物の管理の徹底。レッドエリアで使用した体温計や検温表は同エリア内のみの使用を徹底、エリア外に持ち込まないようにする。弊害としてケース記録や検温表を持ち込むことができなかった。また、手指消毒用のアルコールをどの様に補充するかが課題となったが、使用済みのペットボトルにアルコールを入れてエリアに持ち込み、ボトルは廃棄するという工夫をして補充に関しては対応した。

ゴミなどはエリアごとに色分けし、特に汚物・レッドエリアで出た廃棄物は回収スタッフに消毒と袋を二重にして回収を依頼して対応。

感染のリスクを下げるため、エリアごとで使用する物品を完全に分けて対応。

（筆記用具や体温計、消毒のボトル、エリア内で使用する鍵等）

## ○レッドエリア内での対策の徹底

レッドエリア内での内線の使用に関しても普段通り利用者支援後にも使用していたが、接触感染のリスクがあった。事例としてクルーズ船内でも使用頻度の高い電話機やテレビのリモコン、トイレなどが特にウイルスが付着していたデータもある事から、隔離棟エリア内での内線の使用に関しては制限ないし消毒のルール化をすべきであったように思う。

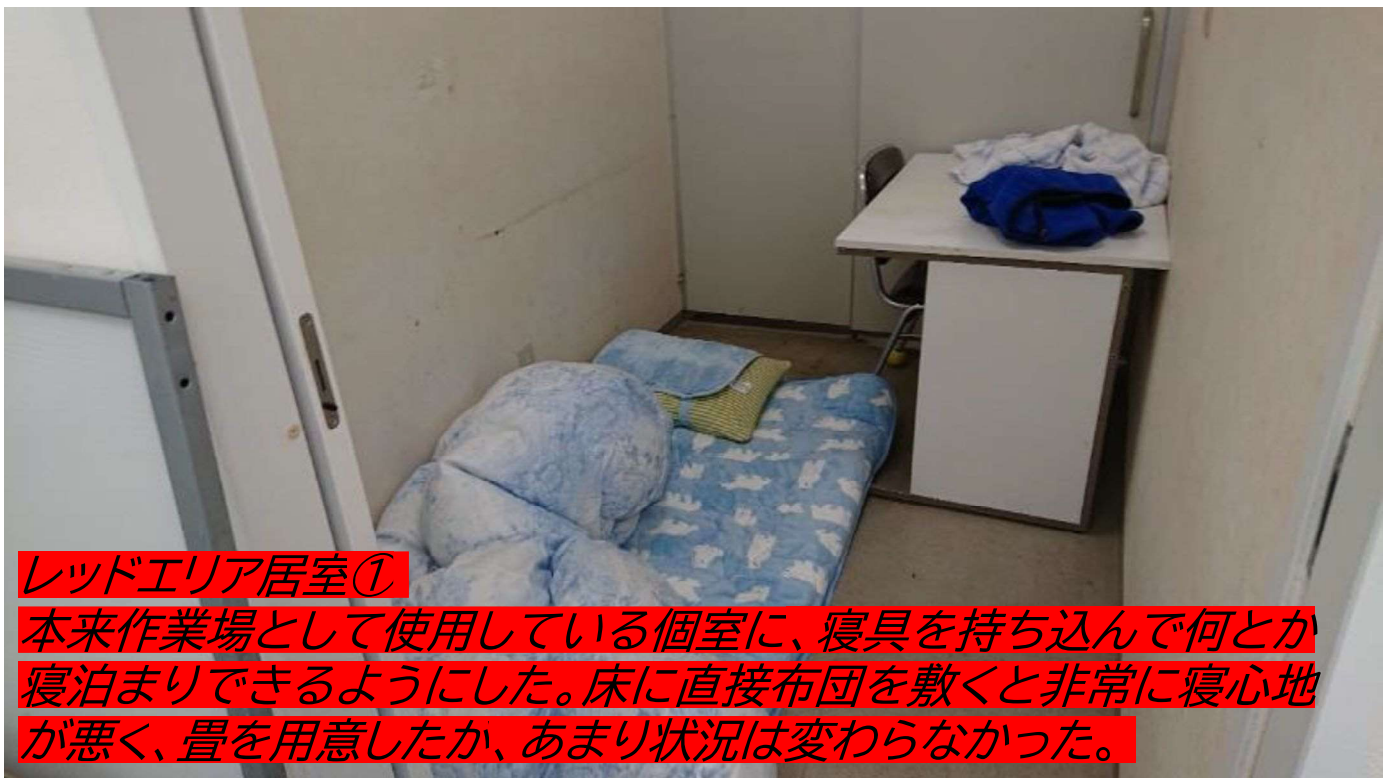
同時に隔離棟内でのゴム手袋の交換も難しく、途中で手ピカジェルを複数用意し、随時ゴム手袋を着用した状態での手指消毒を行う様にしたりと、現場に入って初めて気が付くことが多く、普段当たり前のようになっている事が、隔離棟内ではタブーであったりと、より実戦に近い訓練の必要性が高いと感じた。





### レッドエリア入口

各利用者の髭剃り、検温表・体温計を管理、体温計はデスクにケースを固定し、持ち出さないように配慮した。基本的に利用者に触れる物はレッドエリアを出ないようにルールを徹底した。



### レッドエリア居室①

本来作業場として使用している個室に、寝具を持ち込んで何とか寝泊まりできるようにした。床に直接布団を敷くと非常に寝心地が悪く、畳を用意したか、あまり状況は変わらなかった。



**レッドエリア居室②**

**もともと工房だんやよいクラスは、個室での対応が可能であった事から、想定の間隔から同クラスを隔離棟として運用する想定がされていた。もともと個室である事もあり、それぞれの部屋を用意する事は容易であった。**



**レッドエリア②-2**

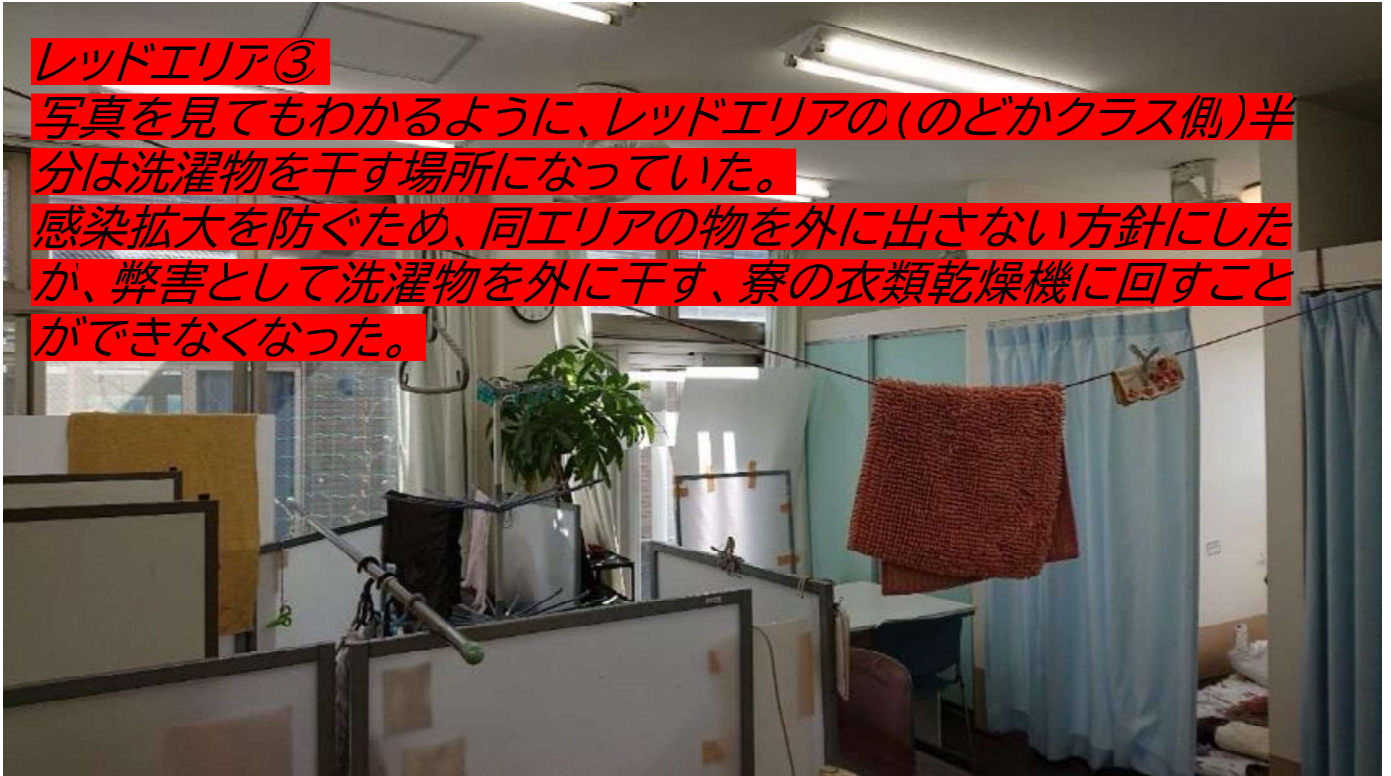
**同エリアには2部屋トイレも備え付けられている部屋があり、他者との集団生活が難しい方も対応ができた。**



### レッドエリア③

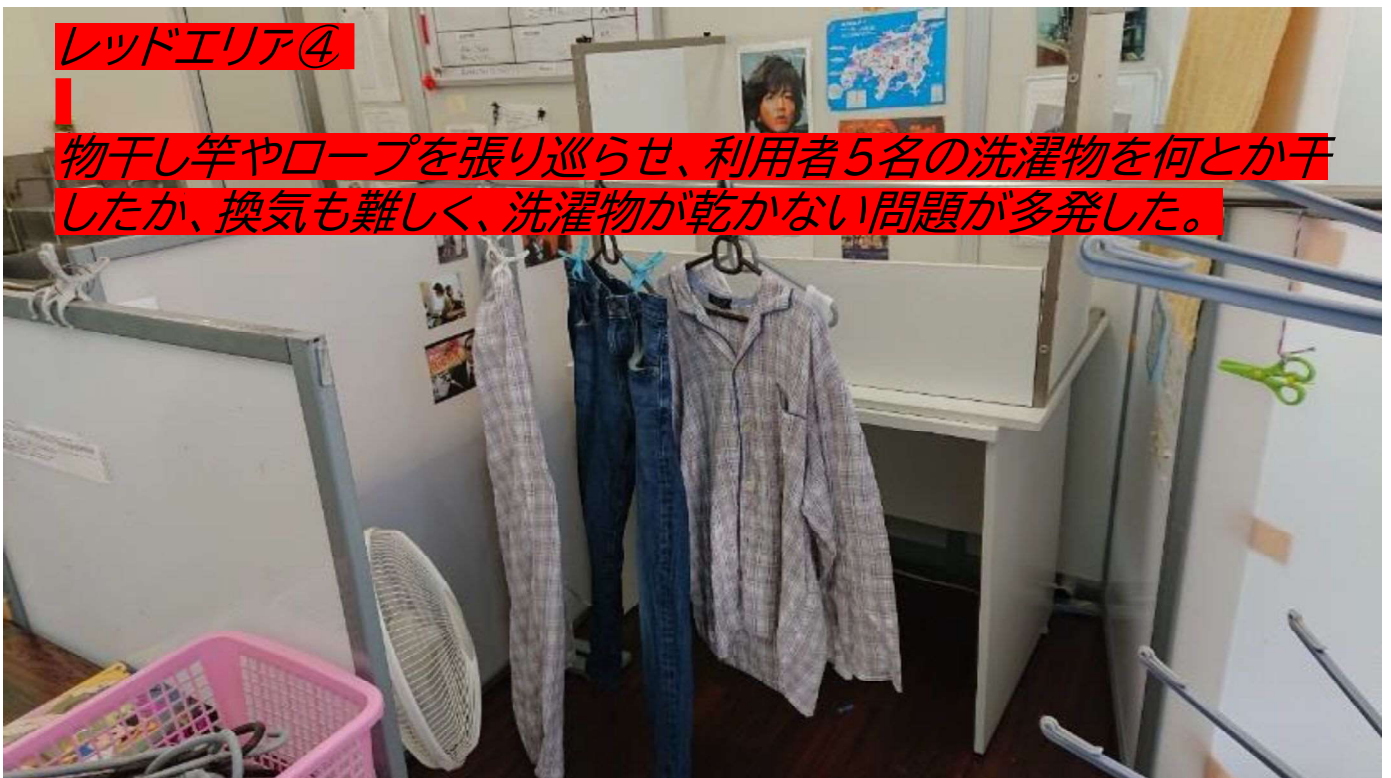
写真を見てもわかるように、レッドエリアの(のどかクラス側)半分は洗濯物を干す場所になっていた。

感染拡大を防ぐため、同エリアの物を外に出さない方針にしたが、弊害として洗濯物を外に干す、寮の衣類乾燥機に回すことができなくなった。



### レッドエリア④

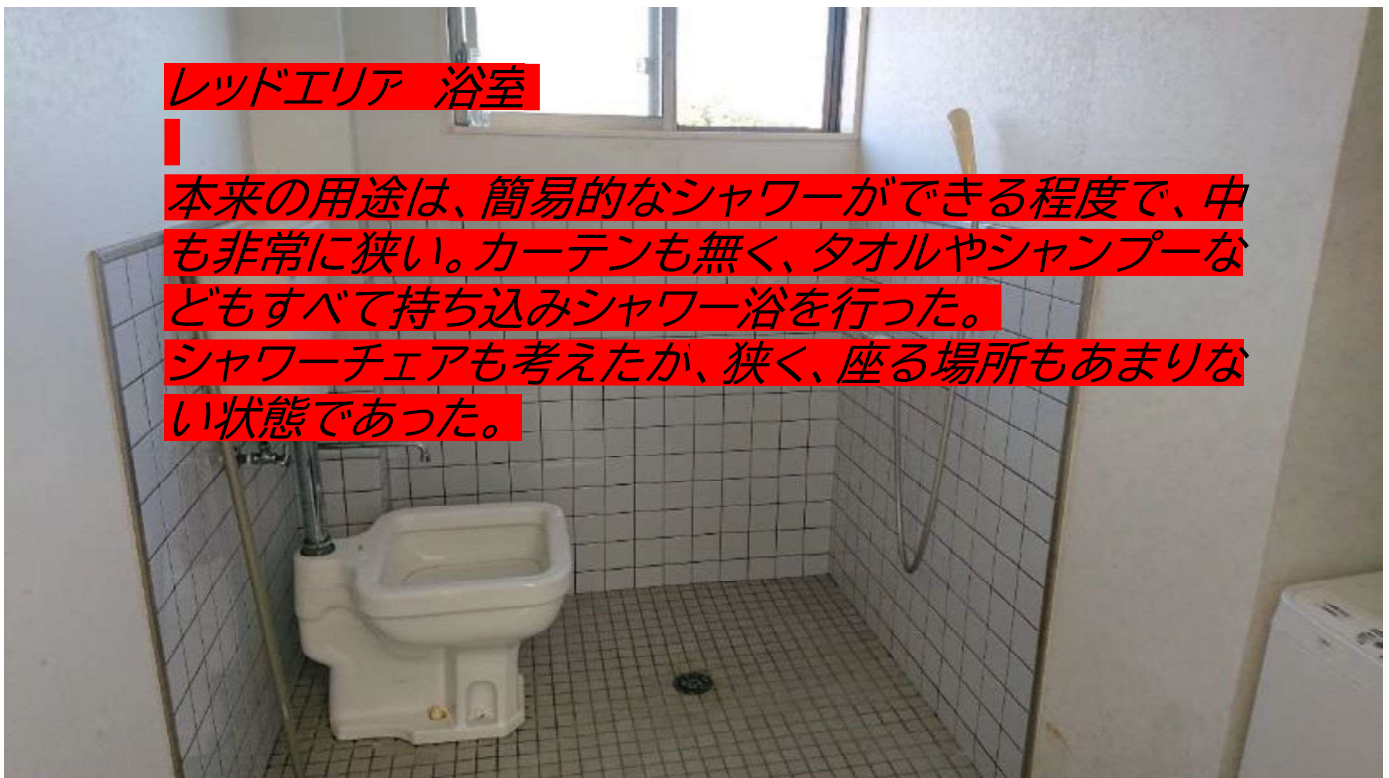
物干し竿やロープを張り巡らせ、利用者5名の洗濯物を何とか干したか、換気も難しく、洗濯物が乾かない問題が多発した。





**レッドエリア⑤**

職員がガウンとゴム手袋を身に着けていると、洗濯物が乾いているかさえ判別が難しい状態であった。



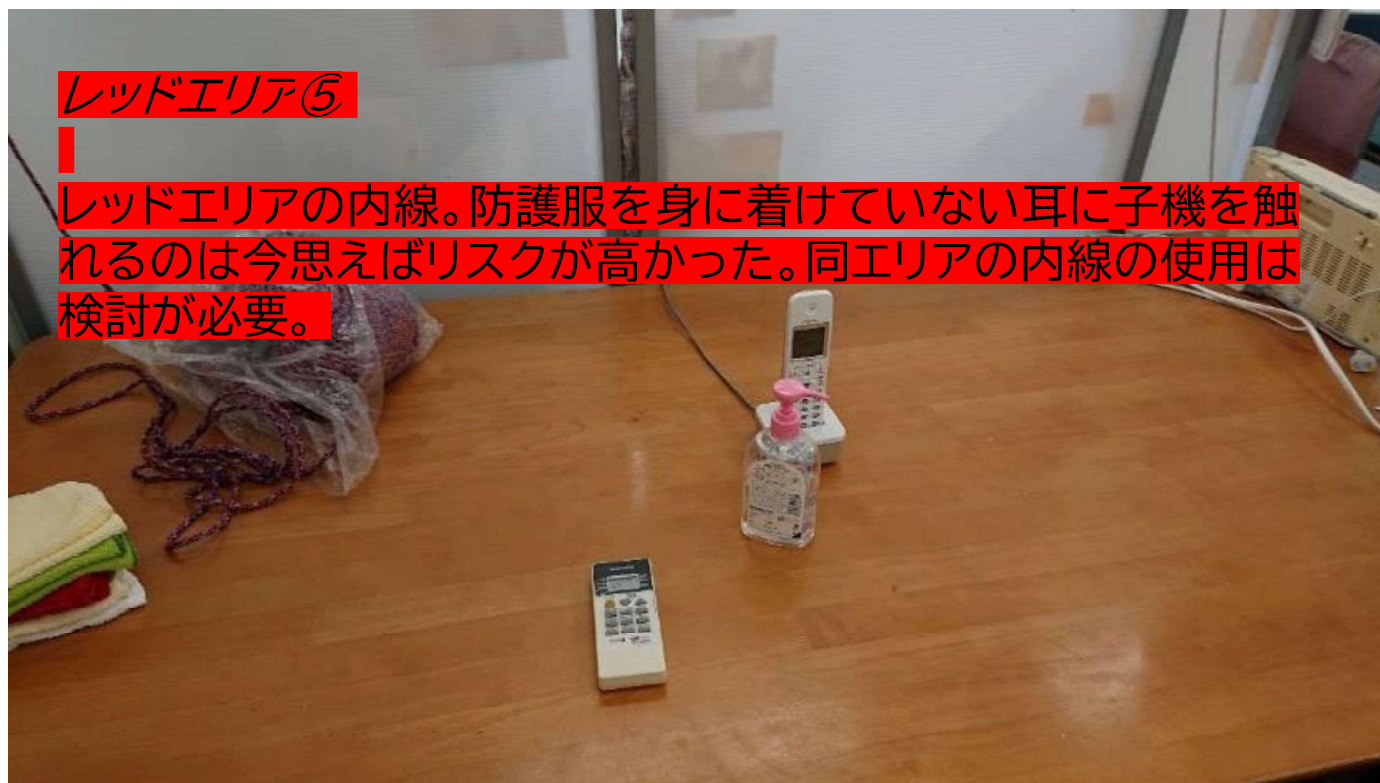
**レッドエリア 浴室**

本来の用途は、簡易的なシャワーができる程度で、中も非常に狭い。カーテンも無く、タオルやシャンプーなどもすべて持ち込みシャワー浴を行った。シャワーチェアも考えたが、狭く、座る場所もあまりない状態であった。



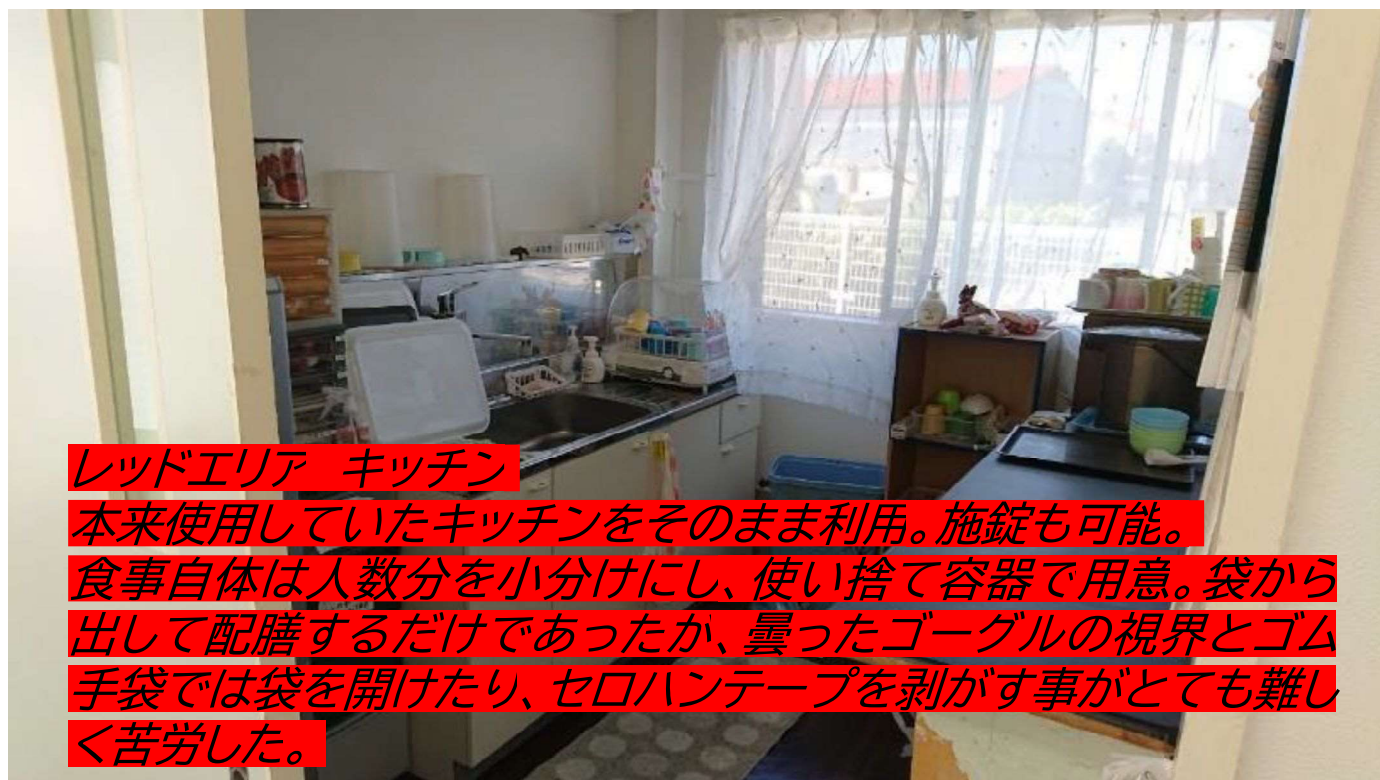
## レッドエリア⑤

レッドエリアの内線。防護服を身に着けていない耳に子機を触れるのは今思えばリスクが高かった。同エリアの内線の使用は検討が必要。

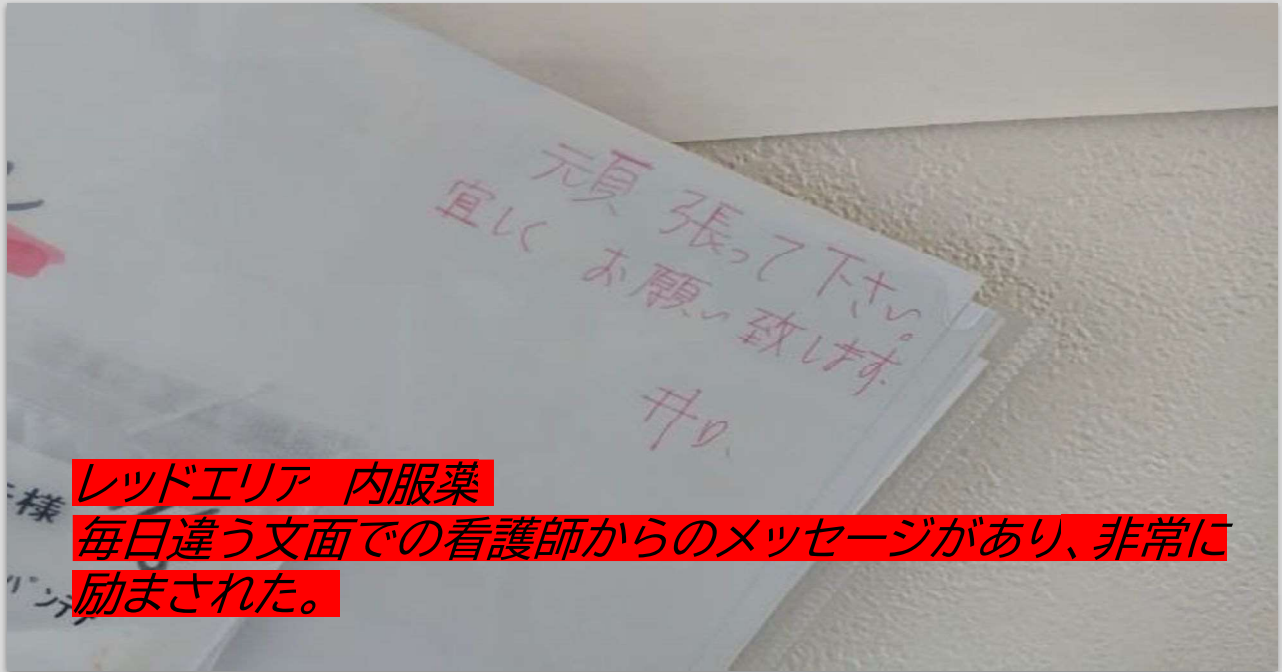


## レッドエリア キッチン

本来使用していたキッチンをそのまま利用。施錠も可能。食事自体は人数分を小分けにし、使い捨て容器で用意。袋から出して配膳するだけであったが、曇ったゴーグルの視界とゴム手袋では袋を開けたり、セロハンテープを剥がす事がとても難しく苦勞した。

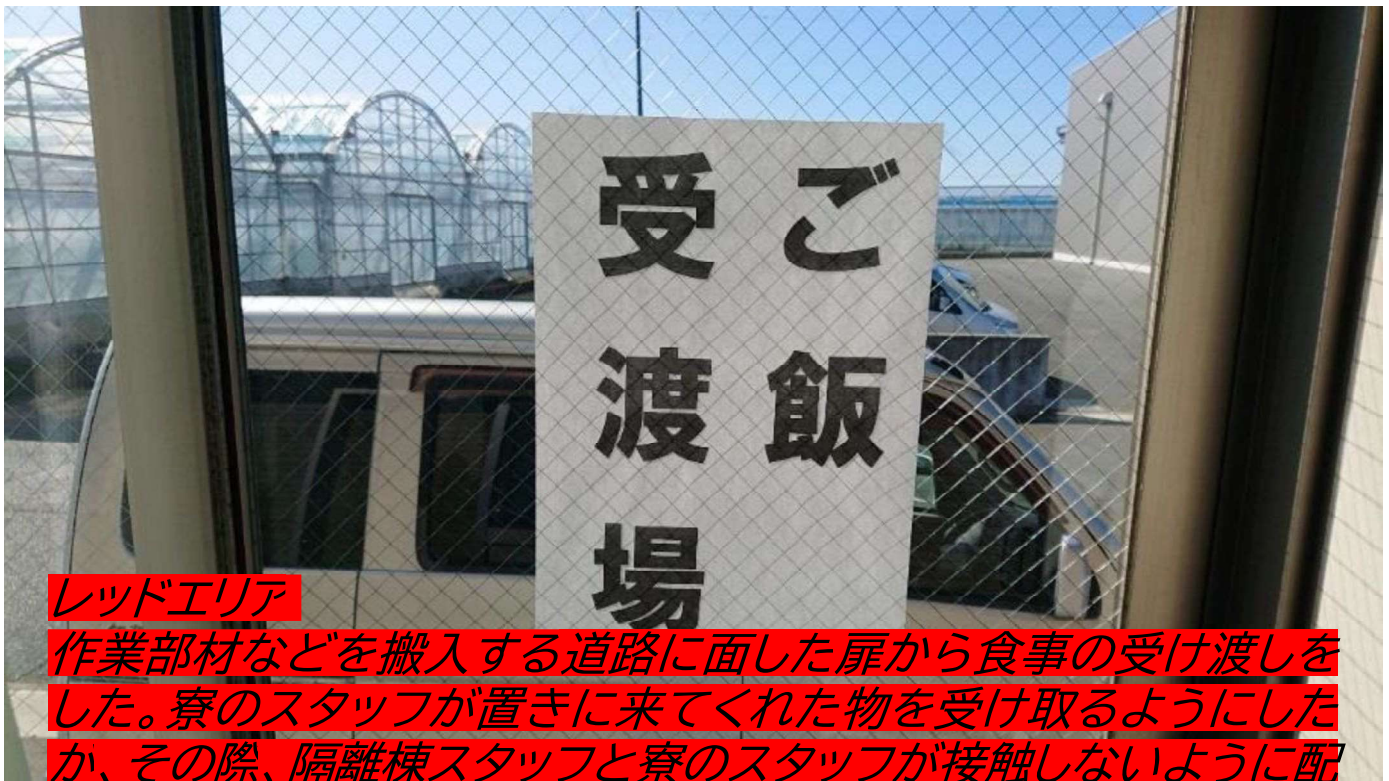






レッドエリア 内服薬

毎日違う文面での看護師からのメッセージがあり、非常に励まされた。



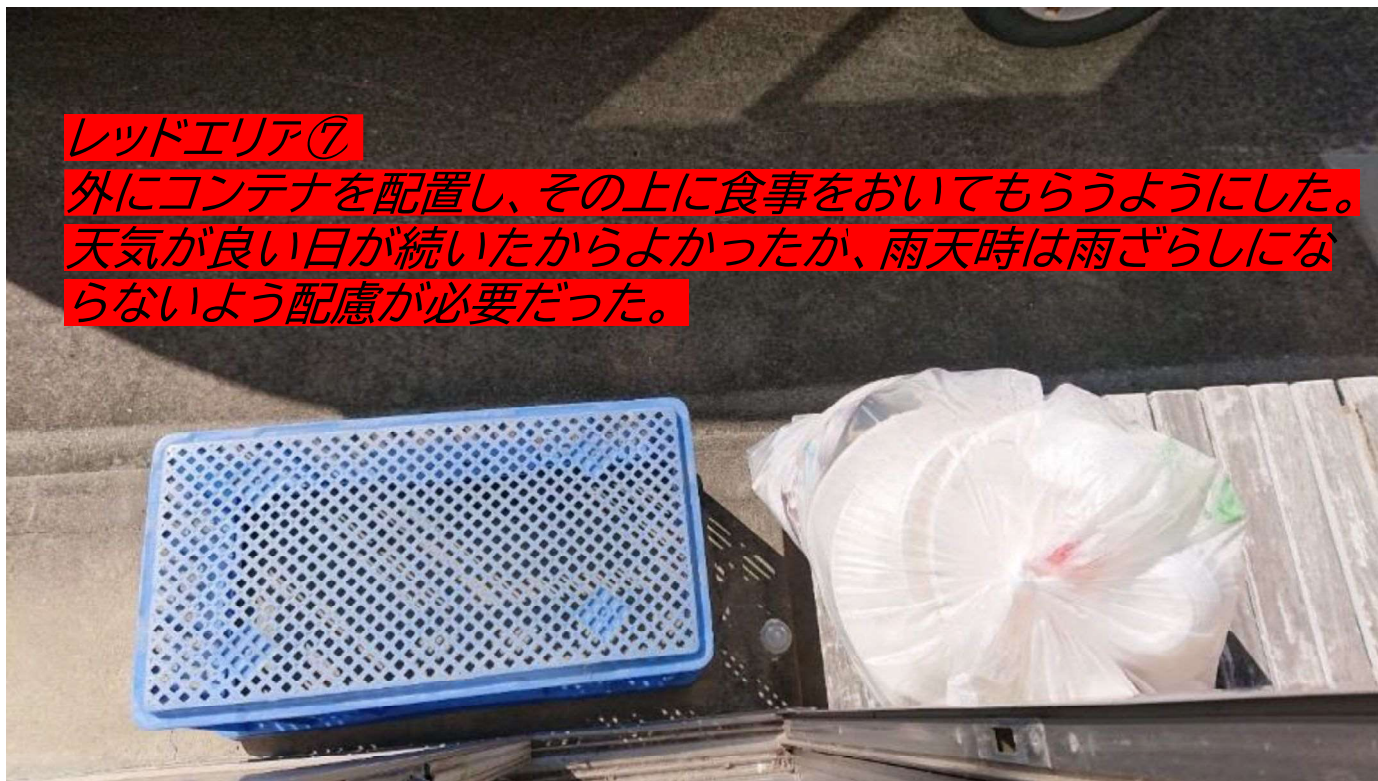
レッドエリア

作業部材などを搬入する道路に面した扉から食事の受け渡しをした。寮のスタッフが置きに来てくれた物を受け取るようにしたが、その際、隔離棟スタッフと寮のスタッフが接触しないように配慮した。道路に面していたため、近隣住民の目に触れやすい事もあり、目隠しとして公用車を配置した。



## レッドエリア⑦

外にコンテナを配置し、その上に食事をおいてもらうようにした。天気が良い日が続いたからよかったが、雨天時は雨ざらしにならないよう配慮が必要だった。



## 体験したからこそ思うこと

(隔離棟専従職員の声)

初めての経験、どこか別世界の話の様で実感が湧かない中、唐突に感染者が発生し、それまでの日常生活が奪われ非日常の中に飛び込むことになった。結果として利用者の感染は認められず、2週間の隔離生活のみで終息したが、仮に陽性者が発生した場合の事を想像すると、大きな不安が残った。

隔離棟で対応するスタッフが一番大変、と言うことはなく、寮で働くスタッフ、サポートして下さるスタッフ、勤務の調整や、施設の運営、保健所等と対応に尽力して下さった方々がいたからこそ隔離棟での勤務が成り立っていた。

今回経験したことを今後活かすためにも、福祉の現場スタッフ一人ひとりが人の命を預かっている事を真剣に受け止めていきたい。手探りで始めた対応であったが、利用者も、職員も2週間無事に乗り切れたことは大きな財産でもあると言える。今回明らかになった課題を、次に備え解決していく必要がある。



### 3、施設の感染予防策

#### 発生前

- ・手洗い、うがい、アルコール消毒、マスク着用の呼びかけ
- ・検温の徹底
- ・職員の行動基準(職員会議/施設内メールでの周知)
- ・利用者の行動基準(外出、レクの開催検討)
- ・行事の開催検討(中止または延期または代替)
- ・保護者へのお願い(定期的に案内文を配布)
- ・外部へのお願い(業者/短期入所利用者/実習生の受入)
- ・衛生用品の準備(品薄/品切れ/金額高騰)
- ・BCP作成

#### 発生後

- ・手洗い、うがい、アルコール消毒、マスク着用の徹底
- ・検温の徹底
- ・職員の行動基準の見直し
- ・利用者の行動基準の見直し
- ・行事の開催方法の見直し
- ・保護者へのお願いの見直し
- ・外部へのお願いの見直し
- ・衛生用品の備蓄
- ・発生時の対応の確認
- ・BCPの見直し(ゾーニング)
- ・実践訓練(シュミレーション)

## 4、実際の対応

### \*施設全体として

10月30日(金)

- ① 17:27 PCR検査を受ける職員がいることが判明し、施設長から副施設長、工房めい所長、企画相談室室長に連絡し招集。  
17:45 根洗寮コロナ対策会議開催。(根洗寮対策本部:根洗寮施設長、副施設長、工房めい所長)状況確認。陽性と出た場合を想定し打ち合わせ。
- ② A職員の今週の健康状態の確認(一週間通して体調不良で27, 28日は休んでいた)⇒サービス管理責任者に指示。
- ③ 濃厚接触が疑われる利用者、職員の特定  
⇒A職員の出勤していた26日, 29日, 30日のクラスの職員及び利用者の行動を時系列でまとめるようサービス管理責任者に指示。クラス担当のパート職員2名にすぐに連絡。
- ④ 職員への指示、連絡  
⇒濃厚接触が疑われる職員、勤務中の寮職員、事務所スタッフ、A職員が担当するクラスに所属している利用者があるグループホーム施設長へ状況報告。
- ⑤ 濃厚接触が疑われる利用者の家族へ連絡(週末帰省者に対して)
- ⑥ 職員が業務中に着用するマスクを医療用に全員変更、濃厚接触が疑われる利用者の対応について指示、伝達(排泄物の処理、消毒、換気、できるだけ個室対応等)



⑦明日の動きについて確認。

来訪者は施設内への入館を禁止。面会禁止。

検査結果が陽性だった場合は、法人コロナ対策委員会、学舎コロナ対策委員会メンバーを招集し、緊急対策会議を開催し、今後の対応について協議する。

検査結果が陰性だった場合は、陰性だったという報告を各自に入れる。

⑧法人コロナ対策委員会、浜松協働学舎コロナ対策委員会のメンバーに状況を連絡。

10月31日(土)

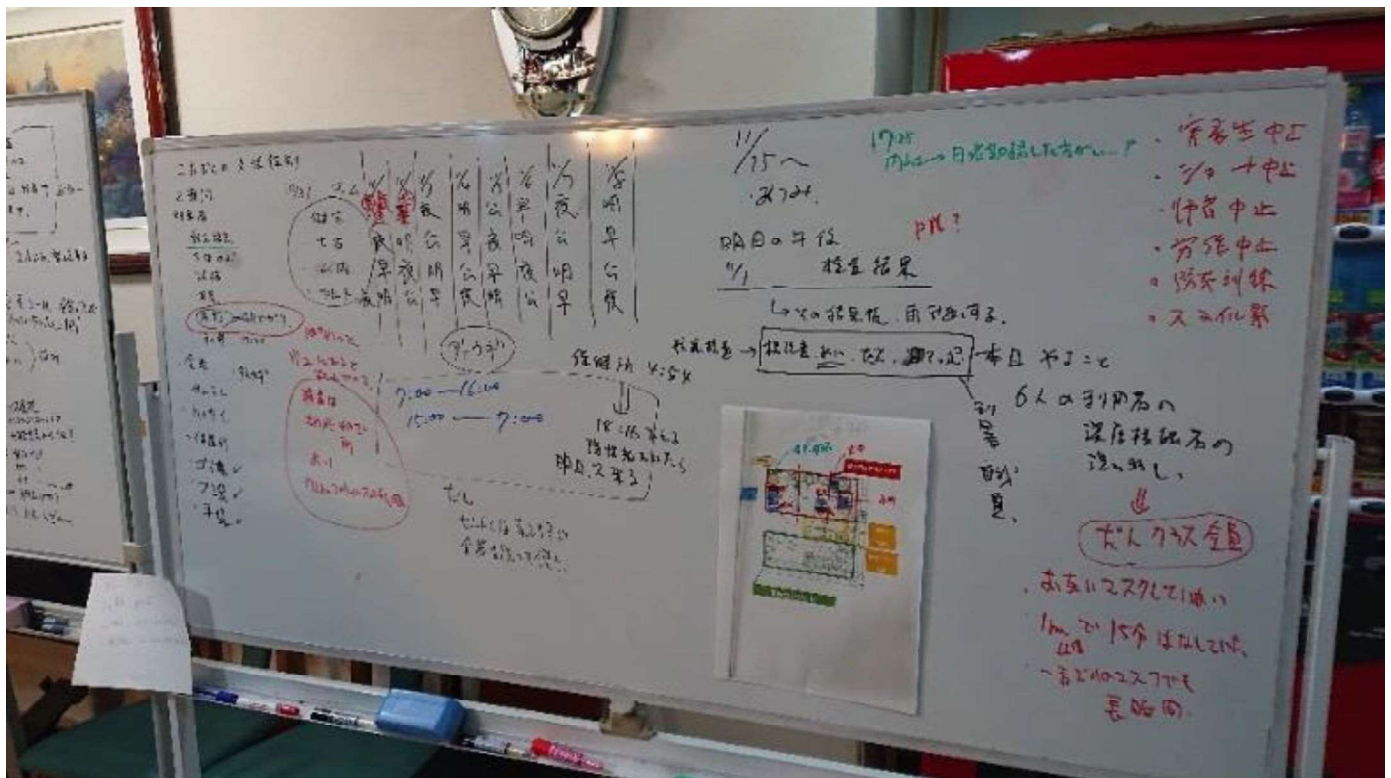
① 14:20 A職員から検査の結果「陽性だった」との連絡が入る。連絡を受けた副施設長は根洗寮対策本部メンバーに連絡。

② 15:00 保健所生活衛生課に職員の中に陽性者が発生したことを伝え指示を求める。(A職員本人から現在行動履歴等聞き取り中とのこと。)

③ 法人コロナ対策委員会、浜松協働学舎コロナ対策委員会に招集の連絡。

④ 15:15 根洗寮コロナ対策本部立ち上げ

状況確認、情報整理、話し合ったこと、情報は全てホワイトボードに記入。記録係が時系列で記録。



※実際に当日記録されたホワイトボード  
※図は隔離棟の配置

- ⑥濃厚接触が疑われる利用者、職員の健康状態を確認する。
- ⑦ショート、日中一時中止。
- ⑧工房だん(隔離棟)を準備するためメンバー召集。
- ⑨工房だんエリア消毒開始。陽性者が勤務していた場所のためウイルスが付着している可能性あり。マスク、手袋、ゴーグル、防護服を着用し対応。  
隔離棟の責任者を決めエリアのレイアウトを指示。濃厚接触者らの支援場所(工房だん)、職員宿泊場所(工房めい)の準備。
- ⑩ 15: 37保健所から連絡が入り施設長対応。職員Aからの聞き取りと施設からの聞き取りから濃厚接触者が特定される。障害特性から保健所で検査するのは難しいのではないかと。PCR検査は施設で行うこととなる。11月1日検査機関へ出し、明日の午後には結果がわかるとのこと。

\*濃厚接触者とは、陽性の検査結果がでた10/31を0日と考え2日前(29日)以降に接触のあったものが対象。陽性者と1メートル以内の距離で双方がマスクをつけていない状態で15分以上会話や食事をした者。陽性者の行動履歴からこの条件に該当するのが、利用者6名と職員3名と家族1名になり濃厚接触者と判断された。医師の派遣については、クラスター(5人以上)が発生すると来るが常時いるわけではない。明日、結果が出るまでは「感染者を対応する」ことを前提に、レッドゾーンではゴーグル、手袋、マスク、ガウンを着用して対応するようにとのこと。

- ⑪ 16: 10行政(障害保健福祉課)へは守衛を通じ連絡。

- ⑫隔離棟専任職員4名選出。  
持病があるもの、高齢のもの、家庭の事情等で感染者の支援ができない者については施設長まで伝えに来るようにと予め、職員配置については会議で説明していた。選出した4名(志願者)の勤務の確認を行う。
- ⑬法人コロナ対策会議開始。  
(法人太田事務長 地域で短期入所や日中一時支援を利用されている方もいる。関係者、保護者にも状況、対応について正確な情報を流し心配や不安を軽減するために法人ホームページにて情報公表することを決定)
- ⑭嘱託医、濃厚接触者が近日中に受診していた医療機関へ連絡。  
嘱託医からは、「保健所の指示に従ってください」と指示がある。
- ⑮ 16: 50障害保健福祉課金原グループ長から折り返し連絡が入る。
- ⑯ 16: 54保健所来所し、濃厚接触者はPCR検査を受ける。唾液を採取。  
→職員は車内で唾液採取 利用者は部屋で唾液採取(利用者はなかなか接種できない者もいた)  
保健所職員に濃厚接触者対応エリアのゾーニングの確認をしてもらう。  
(18: 16保健所対応終了)
- ⑰ 17: 05一斉メール(協働学舎職員・保護者へ周知 308名)にて職員に感染者が発生したこと、濃厚接触者がPCR検査を受けたことを知らせる。一斉メールが繋がらない職員、保護者には電話で知らせる。
- ⑱給食委託業者シーダイナーに連絡(隔離棟は使い捨て食器)
- ⑲PCR検査を実施した利用者の保護者、後見人へ連絡。
- ⑳隔離棟ゾーニング準備終了⇒利用者(5名は隔離棟の工房だんへ、1名はGH内にてゾーニング)
- ㉑ 20: 30移動 隔離棟開始。



## 11月1日(日)

- ①濃厚接触者(6名の利用者、自宅待機職員3名)の体調確認。
- ②A職員の体調確認⇒14:00入院。
- ③14:15保健所から検査結果の報告あり。  
利用者6名職員3名(合計9名)全員陰性だったと連絡を受ける。

濃厚接触者たちは・・・

全員陰性ではあったが、保健所からは「濃厚接触者とされたものについては2週間は他の人との接触は避けるように」と指示があり10月31日～11月13日までの2週間は隔離棟としてゾーニングされた工房だんを居住エリアとし、利用者6名のうち5名はそこで過ごした。1名は本人の特性を考慮し、グループホーム内をゾーニングし、隔離対応とした。

職員3名は自宅待機。

- ④15:31一斉メール(協働学舎職員・保護者へ周知308名)で結果や感染した職員の現状を知らせる⇒安否コール繋がらない職員、保護者には電話で知らせる。
- ⑤B職員より微熱、鼻水、頭痛の症状があると連絡あり。10月30日の朝、少し離れたところにある駐車場～職場までの間、双方マスクを着用せずA職員と根洗寮まで会話をしながら歩いてきたとのこと。明日、保健所に相談し、指示をもらうよう伝える。
- ⑥副施設長は、引き続き勤務調整を行う。
- ⑦ショート、日中一時中止のため利用予定者に連絡。  
(利用予定者には連絡したがこの時相談支援事業所に連絡を入れなかったためのちに法人内相談支援事業所を通して苦情あり)

## 11月2日(月)

- ①朝、障害保健福祉課(窓口:鈴木)へ連絡。経過説明。  
物資の供給についてと生活介護のサービス提供について確認あり。  
生活介護(工房だん及び工房めい)については根洗寮、グループホームを活動場所とし、通所職員が支援を行うことでサービスを継続。在宅からの通所者に対しても同様の対応でサービスを提供することを伝える。  
(報酬にも関わってくるので市とのやりとり、確認大事です！)
- ②B職員から保健所に連絡したところ、濃厚接触者ではなく検査の必要もないと指示されたが、再度、家庭の事情を話したら検査を受けることになったと報告あり。この件を関係者に報告。B職員は濃厚接触者ではなかったため一週間自宅待機し観察期間とした。
- ③陽性者(A職員)の体調確認。
- ④看護師は施設利用者が受診している各医療機関へ連絡。受診日の変更調整行う。
- ⑤障害保健福祉課より施設から送信した報告書を確認したと連絡あり。衛生用品の供給についての確認あり。必要数を確認し準備してくれるとのこと。(衛生用品は国→市へ提供され浜松市も多数確保しているとのこと)

\*法人ホームページに公表

- ⑥保健所から濃厚接触者(6名の利用者たち)の体調確認。
- ⑦濃厚接触者たちの保護者へ施設から体調の報告をする。
- ⑧E職員からPCR検査の結果「陰性」と報告あり。関係者に報告。
- ⑨16:00市障害保健福祉課より物資到着(マスク50枚入り60箱 手袋SM J100枚入り各10箱 ガウン150枚入り2箱 ゴーグル200個)